

日本学術会議地球惑星科学委員会IUGG分科会IAG小委員会（第25期・第3回）
議事要旨

日時： 令和4年5月30日（月）13:00～15:00

会場： Zoomによるオンライン会議

【出席】 古屋正人，青山雄一，荒木博志，市川隆一，伊藤武男，大坪俊通（オブザーバー），太田雄策，小澤拓，高木悠，田中愛幸，宮原伐折羅，渡邊俊一（敬称略）計12名

【欠席】 宮崎真一（敬称略）計1名

配布資料

資料1：2019-2023年期第7回IAG Executive Committee会合報告

議題

- (1) IUGG2023 へ向けた各賞への推薦について
- (2) その他

1. IUGG2023へ向けた各賞への推薦について

古屋委員長より，IAG小委員会からIUGG分科会への候補者の推薦について説明があった。Early career scientist award, フェロー, ゴールドメダルのIUGGの3賞およびIAGのGuy Bomford賞について，応募資格と今後のスケジュールを委員間で共有した。

2. その他

(1) 宮原委員より2019-2023年期第7回IAG ECについて資料に基づいて報告があった。主要な点をいくつかピックアップすると以下のとおり。

ロシア関係：

- ・IVS (International VLBI Service for Geodesy and Astrometry)では，ロシア国家機関との連携を禁じられた国が出てきており，欧州地域の観測においてロシアの観測局を除外することが決定された。
- ・Commission1のSymposium (REFAG) のSOCにロシア人がいることについて，ウクライナの研究者から抗議があり対応が議論された。IAGは政治的に中立でそれにより科学者を差別しないとの方針のもと，当該ロシア人がロシアの侵攻を支持する立場にないことを過去のメールで確認のうえIUGGにアドバイスを求めたところ，IUGGからロシア人排除は行わない方針が再確認された。

IUGG関係：

- ・IUGG2023でIAGの体制が改選される。GGOS議長の宮原委員が交代予定。
- ・IUGG2023に向けて決議案を出す場合の締切は2023年6月。

その他：

- ・IVS総会2024は2024年3月につくばで開催される。
- ・Journal of Geodesy誌では，重力およびIHRFに関する特別号の執筆が進められており，

併せてITRF同様に測地データプロダクトを公開する準備が進行中。

- ・国際重力基準系の名称IGRFをITGRFへ変更する提案がなされ、本IAG ECで合意された。
- ・IAG/GGOS内の技術・一般的な文書(IERS conventionも含む)について, GFZ data servicesが無償でDOIを付与できることが紹介された。

(2) 古屋委員長から、次回のIAG小委員会の日程は、IAGの次期役員を推薦する時期を考慮して調整すること、また、同委員会においてIUGG2023に提出するnational reportの担当者を決定することが報告された。なお、次回IAG ECは2022年12月にパリで対面で開催される。